

No. 1196

# それは資源です

東京・町田

224

せりふ

東京都の不燃性廃棄物は、一日約4,000トン。これらゴミの中に資源となる有価物が60%も含まれています。都下町田市では、廃棄物の再資源化をまちぐるみを行い、エネルギーの節約と環境保全に大きな成果を上げています。市内の森野団地では、あき缶や雑ガラスなどが一般ゴミと一緒に埋められるのに抵抗を感じた主婦たちが「もったいない会」という組織をつくり、ごみの再資源化を行っています。年間の売上げは、30万円、すべて団地内の子供会の費用に還元されています。また商店街でも実験的に有価廃棄物の回収が行なわれています。こうした有価廃棄物の問題は、資源不足の我国にとって、いまや国民的課題となっているのです。

# 下町人情話

234 244

東京の下町にある小さな芝居小屋。不況で住みにくくなった師走に人情劇が大もて。下町には温かい人情が今も生きている。そんな人情の花がちっぽけな焼き鳥屋に咲いた。野島由紀子さんの経営する焼き鳥屋「美紀」。師走のこの店の恒例行事は福祉団体への寄付とモチツキ大会。18人しか座れない小さな店のカウンターに置かれた愛の小箱には常連たちのつり銭や電話代の善意が集まる。今年もたくさんの善意が木箱に詰まっている。

野島さんの話「俺たちは酒が飲めるだけでもありがたい。何かいいことをして新年を迎えるのが始めたのが募金とモチツキ大会の動機です」。

チャリテーモチツキ大会の日、大阪からかけつけたというサラリーマンもいる。店先にセイロとウスを持ち出し約80キロのモチをつき上げる。揃いのハンテンは野島さん母親が徹夜でぬったもの。納豆モチ用の納豆は八百屋の若衆の寄付。必要なものはすべて善意によるもの、おばあちゃんも善意のためならとひとふんぱり。

1個50円の人情モチ、売り上げと集まった募金はすべて寄付される。

木枯しの吹く店先には今年も暖かい善意の花で満開だ。